



2026年5月28日

2026年3月期 決算説明

株式会社アール・エス・シー
(東証スタンダード 4664)



01

2026年3月期決算の概要

02

2027年3月期の業績見通し

03

中期経営計画 RSC Challenge 2030
(2026年度～2030年度)の概要

2026年3月期 連結業績ハイライト

01

前年同期比

【売上高】

△ **6.9%**

【営業利益】

△ **27.8%**

新規受注の拡大、万博警備の成功、
適正価格への転嫁が円滑に進んだものの
前年大型イベント受注の反動により減収減益
一方、前中期経営計画売上高目標75億円は大幅達成

02

新規営業状況

<警備部門>

- ・大阪・関西万博の警備業務受注
- ・豊洲セイルパークビル警備業務開始
- ・ミタマチテラス警備業務開始

<清掃部門>

- ・大阪エリアの大型複合施設清掃業務受注

03

業務DX化の進展および
経営基盤の強化

ミタマチテラスで警備DXを 取り入れた警備業務を開始

AIを搭載した最先端のセキュリティロボットと
人的な警備を組み合わせたサービスを提供

ソフトバンクロボティクス との資本業務提携

従来人手に依存していた警備・清掃業務を自動化し、
業務効率の飛躍的な向上とサービス品質の
均一化・高水準化を推進

2号警備に特化した 「RSCセキュリティ」を設立

警備全体の採用力の強化、お客様のニーズに合った
警備サービスの提供

連結 損益計算書

2026年3月期は、業務のDX化推進や、労務費等の上昇を踏まえた既存物件における適正価格への見直し、新規受注の進展により、警備・清掃等の基幹業務は概ね順調に推移いたしました。一方で、2025年3月期に受託した大型周年イベント業務の反動および過年度の損益修正の影響に加え、人件費・物件費が当初想定を上回って推移したことから、全体としては減収・減益となりました。

損益計算書

単位：百万円

| | 25/3期 | | 26/3期 期初予想 | | 26/3期 | | 前年 同期比 | | 期初 予想比 | |
|-------|-------|-------|---------------|------|-------|-------|-----------|--------|-----------|--------|
| | | 構成比 | | 構成比 | | 構成比 | | 増減率 | | 増減率 |
| 売上高 | 8,845 | | 8,300 | | 8,232 | | △613 | △6.9% | △68 | △7.4% |
| 売上原価 | 7,325 | 82.8% | — | — | 6,725 | 81.7% | △599 | △8.2% | — | — |
| 売上総利益 | 1,520 | 17.2% | — | — | 1,507 | 18.3% | △14 | △0.9% | — | — |
| 販売管理費 | 1,219 | 13.8% | — | — | 1,289 | 15.7% | +70 | +5.7% | — | — |
| 営業利益 | 301 | 3.4% | 300 | 3.6% | 217 | 2.6% | △84 | △27.8% | △83 | △27.5% |
| 経常利益 | 310 | 3.5% | 300 | 3.6% | 234 | 2.8% | △76 | △24.7% | △66 | △22.1% |
| 当期利益 | 187 | 2.1% | 205 | 2.5% | 140 | 1.7% | △64 | △25.1% | △65 | △31.7% |

トピックス（2026年3月期）

前中期経営計画の最終年度となる2026年3月期における、取り組みの結果

1. 新規案件の獲得・警備サービスの高度化

- ▶ 大規模再開発案件「豊洲セイルパークビル」にて警備業務を開始（2025年6月）
 - ・ 複合施設警備のノウハウを活用し、都市型大型案件の受注を拡大
- ▶ 「ミタマチテラス」においてAIセキュリティロボット（cocobo※）を導入（2025年8月）
 - ・ 人的警備とロボットを組み合わせた次世代警備サービスを提供
 - ・ 監視・巡回・異常検知を高度化し、警備品質と効率を向上
- ▶ 関西地区の**新規複合施設**にて清掃業務を開始（2025年6月）

2. 事業拡大に向けた組織強化

- ▶ 2号警備・イベント警備に特化した新会社「RSCセキュリティ」を設立（2025年9月）
 - ・ 社会インフラ整備・イベント増加による需要拡大に対応
 - ・ 人材不足・高齢化という業界課題への対応を強化

主な取り組み

- ✓ 実践的教育による高品質人材の育成
- ✓ 多様な人材の活用によるサービス柔軟性向上
- ✓ 現場密着型運営による迅速かつ最適な警備体制構築

3. DX・AI活用による成長戦略の推進

- ▶ ソフトバンクロボティクスとの**資本業務提携**を締結（2025年11月）
- ▶ AI警備ソリューションの導入を推進（2026年度以降本格展開予定）

狙い

- ✓ 警備の省人化・効率化
- ✓ データ・AIを活用した高度な警備サービスの実現
- ✓ 中長期的な収益基盤の強化



豊洲セイルパークビル



ミタマチテラス



AI警備ソリューションの導入

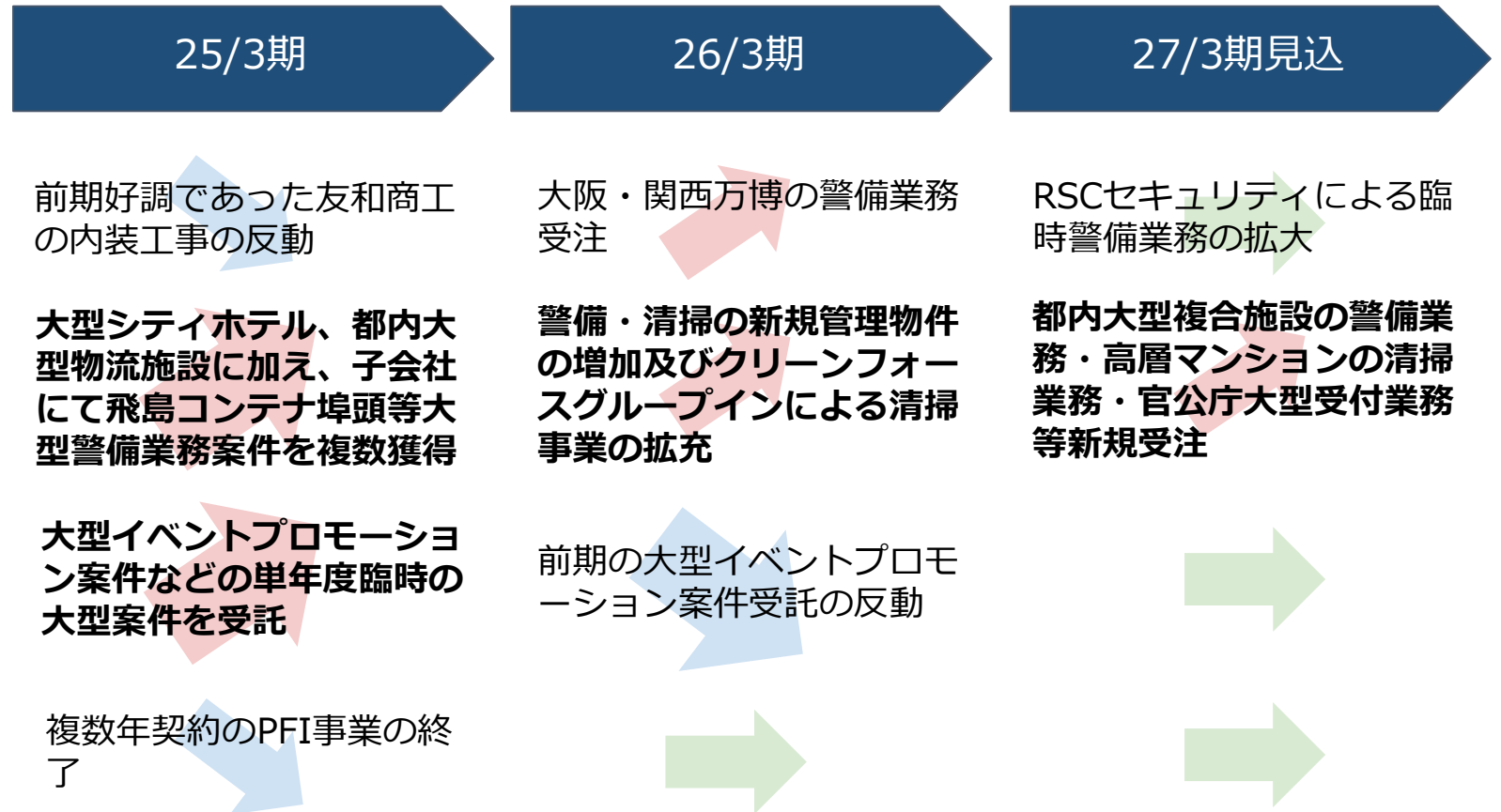
※ cocobo はセコム株式会社の登録商標です。

セグメントごとの事業進捗

当社グループの主力事業である**建物総合サービスの年間契約案件は、その売上を着実に伸ばしております**。一方で利益率の高い臨時契約案件は各年度での変動はあるものの、総じてトップラインや利益の向上に貢献しております。加えて業務DX化と併せた新規提案の受注も業績に寄与しております。

単位：百万円

| サービス | 25/3期 | 26/3期 | 増減 | 臨時 |
|------|-------|-------|--------|------|
| | 建物総合 | 6,879 | 7,569 | +690 |
| 人材 | 25/3期 | 26/3期 | 増減 | 臨時 |
| | 1,966 | 663 | △1,303 | 年契 |



連結 貸借対照表

貸借対照表

単位：百万円

| | 25/3期 | 26/3期 | 増 減 | 主な増減要因 |
|-----------|-------|-------|-------|---|
| 現金・預金 | 1,767 | 1,806 | 39 | 売掛金の回収による増加、役員退職慰労金に係る未払金の支払、買掛金の支払・借入返済による減少 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,111 | 904 | △208 | |
| 前払費用 | 21 | 98 | 76 | DX投資による増加 |
| 有形固定資産 | 483 | 531 | 48 | DX投資による増加 |
| その他の資産 | 777 | 713 | △ 63 | |
| 資産合計 | 4,160 | 4,052 | △ 107 | |
| 買掛金 | 391 | 283 | △108 | |
| 短期・長期借入金 | 381 | 239 | △ 142 | 借入金の返済 |
| その他の負債 | 1,210 | 1,132 | △ 79 | 退職給付に係る負債、役員退職慰労金に係る未払金の支払 |
| 負債合計 | 1,982 | 1,643 | △ 162 | |
| 資本金 | 302 | 361 | 59 | 増資による増加 |
| 資本剰余金 | 246 | 306 | 60 | 増資による増加 |
| 利益剰余金 | 1,581 | 1,653 | 71 | |
| 自己株式 | △ 42 | △ 32 | 10 | 譲渡制限株式報酬の支払い |
| その他の純資産 | 91 | 111 | 21 | |
| 純資産合計 | 2,178 | 2,399 | 222 | |
| 負債・純資産合計 | 4,160 | 4,052 | △ 107 | |

キャッシュフロー計算書

| | 25/3期 | 26/3期 | 主な増減要因 |
|------------------|-------|-------|-----------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 22 | 220 | 売上債権の減少 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 23 | △56 | AI警備関連有形固定資産の取得 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 165 | △ 96 | 借入金の返済、増資による収入 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,333 | 1,380 | |

01

2025年3月期決算の概要

02

2027年3月期の業績見通し

03

中期経営計画 RSC Challenge 2030
(2026年度～2030年度)の概要

2027年3月期の連結業績予想

2026年3月期は大阪・関西万博の警備を受注したことに加え、前期に開始した警備・清掃部門における新規受託案件が通年で寄与したものの、人材サービス事業における臨時イベント業務の受注が伸び悩み、売上高・利益共に見込みを下回りました。

2027年3月期は、新たに竣工する大型複合施設の警備業務および高層マンションの清掃業務の受注ならびに、大型官公庁の受付業務など、新規受注を見込んでいるものの、**新たな中期経営計画の初年度における成長投資フェーズにあたり、A I・ロボティクスへの投資に加え、バックオフィスのD X化にも取り組む**ことから、増収・減益を見込んでおります。

単位：百万円

| | 26 / 3 期実績 | 27 / 3 期予想 | 前年実績比 |
|-------------|------------|------------|-------|
| (連結) 売上高 | 8,232 | 8,392 | 160 |
| 営業利益 | 217 | 117 | △100 |
| 経常利益 | 234 | 124 | △110 |
| 当期純利益 | 162 | 68 | △94 |
| (個別) 売上高 | 6,068 | 6,220 | 152 |
| 経常利益 | 182 | 73 | △109 |
| 当期純利益 | 128 | 51 | △77 |
| 配当額 (1株当たり) | 24円 (見込) | 24円 (見込) | — |

01

2025年3月期決算の概要

02

2026年3月期の業績見通しと株主還元

03

**中期経営計画 RSC Challenge 2030
(2026年度～2030年度)の概要**

ビジョン実現に向けた
バックキャストिंग

ビジョン

安全・安心・快適な未来を
「人×技術」でつくる
共創型社会インフラ企業へ

新たな成長ステージへ

中期経営計画 RSC Challenge 2030 (2026年度～2030年度)

前・中期経営計画
(2020年度～2025年度)

ディベロッパーとの共創・DXサプライヤーとの連携
による「共創型サービスモデル」へ

「信頼」を礎に、「安全」と「満足」を
提供するプロフェッショナル集団へ

成長戦略①：既存事業の拡大と筋肉質化

成長戦略②：人的資本投資 × AI警備を中心としたDX投資戦略

成長戦略③：M&A投資戦略

収益力の向上
(ワンストップソリューション、エリア管理体制 etc)

技術力の強化
(DX投資etc)

職場環境の改善

経営基盤の強化
(サステナビリティへの取組、M&A戦略 etc)

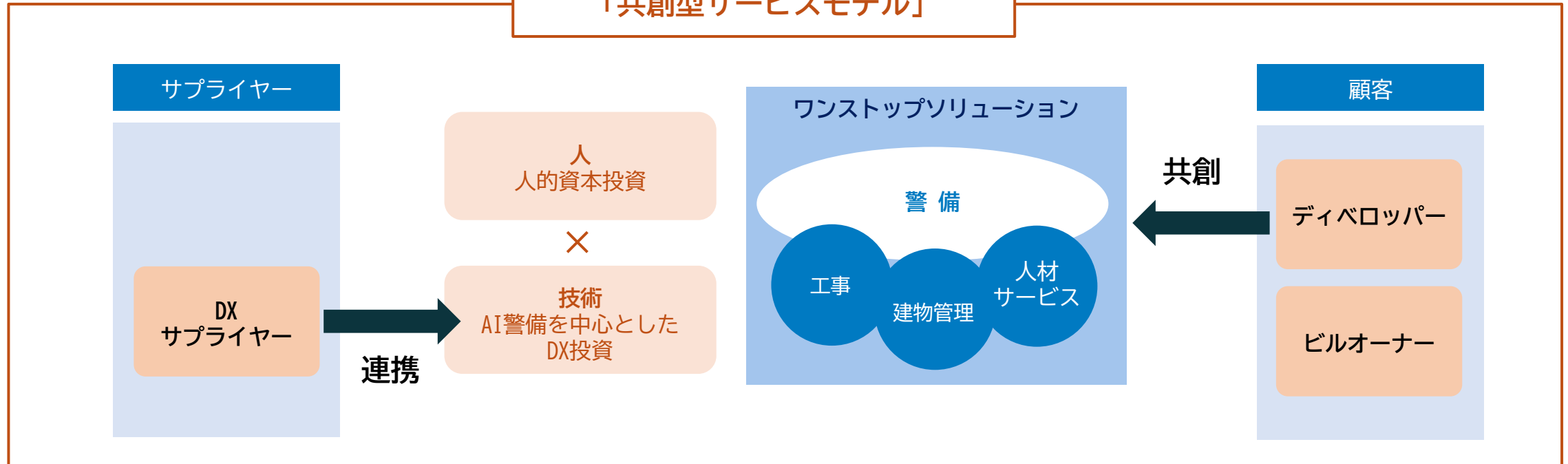
バリュー

誠実、挑戦、共創 ～信頼を大事に、社会を守る～

RSCが提供する共創型サービスモデルとは？

デベロッパーとの共創・DXサプライヤーとの連携により、大規模複合施設を黎明期から支え、多くの優良顧客と長期の付き合いをしてきました。今後は、従来型の画一的なサービスに留まらない、当社だからこそできる「共創型サービスモデル」の提供を目指していきます。

「共創型サービスモデル」



業界・市場で起きていること

- ・ 都心部・大規模・複合施設の開発は今後も継続
- ・ 人材は構造的に不足しており、AI技術など先端技術の利用が重要
- ・ 採用市場では労働人口の減少により働き手に選ばれる必要性が高まり、働きやすい環境整備が差別化要因となる

RSCが積み上げてきたこと

- ・ 難易度の高い都心部・大規模・複合施設を中心に、エリア単位で、警備・清掃・設備・受付を横断した運営実績
- ・ デベロッパーやオーナーとの長期的な関係性構築(ストック性の向上)
- ・ サプライヤーとの連携を通じたDX投資への積極的な取り組み

収益ドライバー

収益計画としては、2030年度には連結売上高 14,000百万円、売上総利益率 20%、営業利益率 5%を達成することを目指します。

そのために、成長戦略①既存事業の拡大・筋肉質化と成長戦略②M&A投資戦略によって、主に売上の拡大を図り、成長戦略③人的資本投資戦略×AI警備を中心としたDX投資戦略によって、主に利益率の向上を図ります。

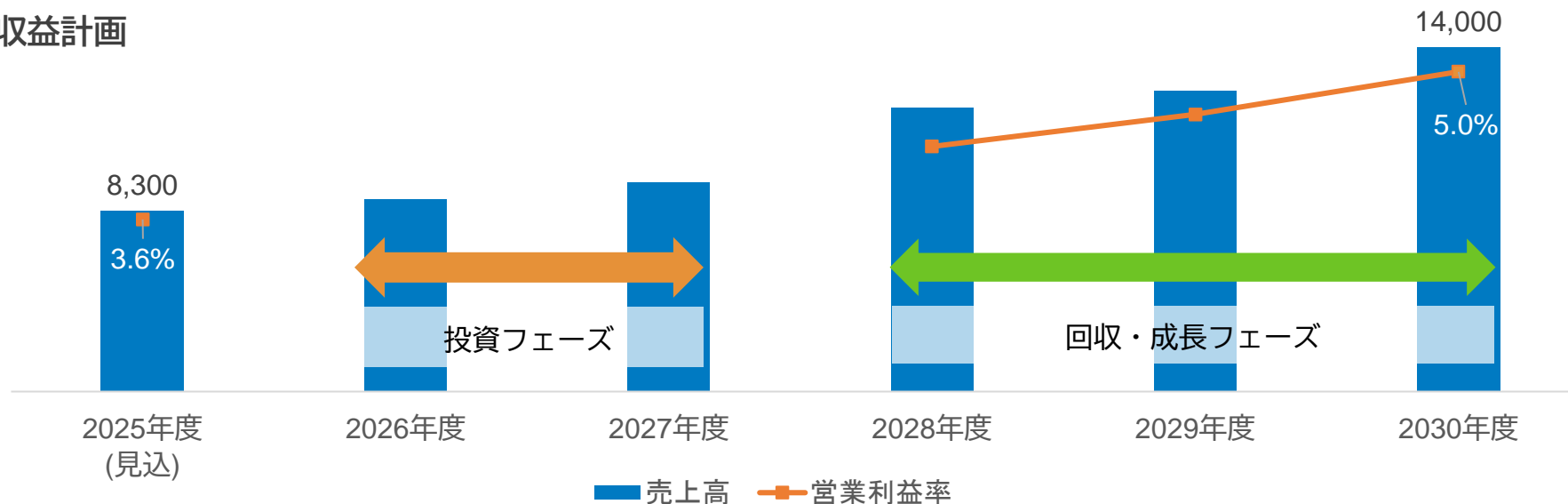


定量目標と財務KPI

成長戦略として「RSC Challenge 2030」では2026年度から2027年度は投資期間とし、2028年度から投資に対する回収・成長を目指し、2030年度に売上高140億円、営業利益率5%以上を目標といたします。

財務KPIでは、企業成長を推進するための投資を積極的に行っていくことにより、ROICを重要視し10%以上を目指します。

◆ 収益計画



◆ 財務KPI

| | 2025年度 | 2030年度 |
|--------------|----------------|----------------|
| 売上高 | 8,300百万円 | 14,000百万円 |
| 売上総利益(百万円)/率 | 1,600百万円/19.2% | 2,800百万円/20.0% |
| 営業利益(百万円)/率 | 300百万円/3.6% | 700百万円/5.0% |
| ROE | 8.8% | 13%以上 |
| ROIC | 6.7% | 10%以上 |
| WACC | 5.5% | 5.6% |
| 自己資本比率 | 57.3% | 50%以上 |

27年3月期の重点取組

1 新たな案件の獲得による既存事業の拡大

- ・新たに受注が確定している案件の安定稼働と収益化
（大型複合施設の警備業務、高層マンションの清掃業務、大型官公庁受付業務等）
- ・グループシナジーによる、新たな子会社の事業拡大（クリーンフォース、RSCセキュリティ）

2 継続的な利益率の改善と安定的な利益の確保

- ・労務費等の上昇に伴う適正な価格転嫁への取り組みによる利益改善
- ・DX活用による現場運営・人員配置の最適化を通じた収益性の改善

3 DX投資の推進

- ・AI・ロボティクスへの投資による複数事業所における検証導入の開始
- ・バックオフィスDXへの投資
- ・AI・ロボティクスの検証導入やバックオフィスDXを通じ、運営手法・業務プロセスの差別化を具体的に進めることで、競争力強化に向けた基盤づくりに着手

4 M&A投資の推進

- ・既存事業とのシナジーを重視したM&A機会の検討
- ・持ち込み案件の検討に加え、当社戦略に沿った業種・規模を明確化した能動的な案件検討の推進

サステナビリティ経営への取り組み～マテリアリティに紐づく取組実績～

当社のサステナビリティ基本方針をもとに2025年度における5つのマテリアリティ(重要課題)に紐づく取り組みを以下の通り実施しました。

マテリアリティ

主要な取り組み例

- 1 お客様からの信頼を礎にした事業活動と法令遵守意識の徹底
- 2 人的資本経営とダイバーシティの推進
- 3 地域社会への積極的な関わり
- 4 DXによるナレッジ蓄積とサービスクオリティの向上
- 5 地球環境への配慮

- 警備隊に対する所轄警察署からの表彰
- 熱中症対策義務化に伴う体制構築
- 社内及び協力会社への取適法改正について説明
- 働きやすい職場環境作り(プロジェクト継続活動)
- 大阪・関西万博への本支店員の積極登用(経験値の蓄積)
- 社員待遇改善への取り組み
- 各拠点の地域イベントへの参加(治安パトロールや周辺清掃等)
- 大阪・関西万博警備JVへの参加
- RSC中部「きつずタウン北なごや」に出展し、子供向け就労体験イベント実施
- 新規案件へのDX提案の実施によりセキュリティロボット(cocobo)の導入
- ガイドラインを制定し、生成AIの積極的活用
- ソフトバンクロボティクスとの資本業務提携によるAI警備ソリューションの導入
- 社内ワークフローシステムの導入によるペーパーレス推進
- 警備制服のリサイクル

免責事項

- 本資料の作成に当たり、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、作成しております。
- また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。
- 当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。